



西前小だより

横浜市立西前小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishimae/>



かけがえのない二日間

校長 末松 隆一郎

5月25日・26日、6年生の日光修学旅行に同行しました。今年のテーマは、「最高の思い出に残る 日光修学旅行にしよう」。天候にも何とか恵まれ、大自然と文化遺産の地で、かけがえのない二日間を過ごしたようです。出発式の時、みんなに「日光の全てに感動して下さい。」という話をしましたが、日光では6年生のみんなのチームワーク、事前学習、そして、経験値を増やす中で成長していく姿に、感動させてもらいました。ふれあい活動、NFWも含め、最高学年としての「自覚」が「自信」へと変わったことを実感した二日間でした。日光での成長をスタートに、また一つ上の自分を目指してがんばってほしいと思います。



人間ですか？ ニワトリですか？

私がまだ学級担任をしている頃、飼育委員会という委員会の担当を10年近くやっていました。その学校の飼育小屋にはニワトリが三部屋に分かれて10羽ぐらい飼われていました。ニワトリ小屋では、次のようなことが日常的にありました。

- (1) トサカに傷のある仲間がいると、他のニワトリが寄ってたかって、傷ついたニワトリに攻撃を加えいじめます。傷ついたニワトリは小屋中を逃げ回りますが、他のニワトリはいじめることをやめません。ニワトリは、傷ついたニワトリをいたわることができません。
- (2) 生まれた時、少し元気のなかったヒヨコがいたので、別の場所で育て、元気になったので元の小屋に戻しました。すると、今までいたヒヨコたちが入ってきた一羽を追いかけました。また、地域の人からいただいたニワトリを小屋に入れると、一斉にくちばしでつつきはじめました。ニワトリは新しい友だちを仲間に入れて、仲良くすることができません。
- (3) ニワトリの大好物な魚を一匹小屋に投げ込むと、真っ先に取ったニワトリが口にくわえ素早く逃げます。それを見て他のニワトリたちが追いかけ、大騒ぎになります。ニワトリは、おいしい食べ物を仲良く分け合うことを知りません。普段の食事でも、えさ箱に真っ先にくるのは、力の強そうなニワトリです。弱いニワトリは、強いニワトリが食べ終わるのを隅で待って我慢しています。

そしてもちろん、このようなことをニワトリに訓練しても、止めることはありませんでした。

ニワトリ小屋で起きていたことは、人間の社会では、ましてや教室の中では考えられないことであり、絶対にあってはならないことです。私たち人間も動物の仲間です。人間と動物とでは同じような所もありますが、大きな違いがあります。それは、ニワトリや他の動物は「こんなことしてはいけないよ。おかしいよ。」とか「仲間を大切に暮らしていこうよ。」ということ、考えたり話し合ったり決めたりしない、できないということです。私たちには、問題を解決するための思いやりの心、そして言葉があります。もし、ニワトリ小屋で起きていたようなことを見たり聞いたりしたら、「そんなことはおかしいよ。してはいけないよ。」と言えるのが人間です。思いやりの心と言葉は、みんなが仲良く安心して生活するための、とても大事なものです。

あなたは 人間ですか？ニワトリですか？

ニワトリ小屋で起こるようなことを、自分たちは「絶対に起こさない。」そんな強い気持ちと、温かな言葉を、みなさん一人ひとりにもってほしいと思います。

